

平成30年度病虫害発生予察予報第5号（8月）

平成30年8月3日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ 斑点米カメムシ類	少（県下全域） <u>多（中央部、中西部）、やや少（東、西）</u> 平年並（西）、やや少（東、中央、中西） 少（県下全域） 少（県下全域） <u>多（西）、やや少（中央、中西）、少（東）</u> <u>やや多～多（県下全域）</u>
かんきつ類（温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	少（中央） <u>多（中央）</u> 少（中央） 平年並（中央）
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多（西）</u> 、平年並（東）、少（中央、中西） 平年並（中央、中西）、少（東、西） <u>多（中央）</u> 、少（東、中西、西） <u>やや多（東、中央）</u> 、平年並（中西）、少（西）

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 2 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 8 月 4 日から 9 月 3 日

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は高い確率 70% です。日照時間は平年並または高い確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 80% です。2 週目は高い確率 60% です。3 ～ 4 週目は高い確率ともに 50% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	40		30	30
		日照時間	20	40		40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		10	30	60	
3 ～ 4 週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 4 日（土）～ 9 月 3 日（月）

1 週目：8 月 4 日（土）～ 8 月 10 日（金）

2 週目：8 月 11 日（土）～ 8 月 17 日（金）

3 ～ 4 週目：8 月 18 日（土）～ 8 月 31 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 7 月の調査では葉いもちは県下全域で発生が確認されているものの、発生面積は平年よりもかなり少なく、発生程度も低い。

(2) 8 月の気温は平年よりも高い確率が 70%、降水量は少ない確率が 40%、平年並および多い確率がともに 30% と予想されているため、穂いもちの発生が増加する要因は少ないと考えられる。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI 剤耐性菌発生を防止するため、使用回数は作期を通じて 1 回とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 本病が7月に多発することは希であるが、7月の調査では県東部を除く地域で発生が見られ、特に中央部、中西部では広域に発生が見られた。
- (2) 本病の発生は肥切れによって助長される。8月の気温は平年よりも高い確率が70%、日照時間は平年並または高い確率が40%と予想されているため、稲の生育は旺盛となり発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：平年並（西部）、やや少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は平年以下で、発生程度が高い地域は見られなかった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられるが、発生程度の高い地域は見られていないため、7月と同様の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は全般的に少なめ、発生程度も平年以下であった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されているため密度が増加すると考えられるが、発生程度の高い地域は見られていないため、7月と同様の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 出穂期に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度になった場合には防除する。

5) トビイロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査では発生は見られていない。また、他県でも目立った発生は見られていない。

対 策

- (1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

6) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（西部）、やや少（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県東部を除き発生が見られた。発生面積は県西部で多く、中央部、

中西部は平年よりも少なかった。

(2) 8月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫の吸汁による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

7) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：やや多～多（県下全域）

根 拠

(1) 7月の早期稲の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は平年に比べやや多く、発生程度は平年並であった。

(2) 8月の気温は高め、多照と予想されているため密度は増加すると考えられる。

対 策

(1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。

(2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生が見られなかった。

(2) 8月の降水量は降水量は平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生面積は平年よりも多かった。

(2) 8月の降水量は平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生が見られなかった。

(2) 8月の降水量は降水量は平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生面積は平年並、発生程度はやや低かった。

(2) 8月の気温は高めと予想されており、高温期には増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県西部で発生面積が多め、東部は平年並、中央部、中西部では発生が少なく、発生面積が多かった西部でも発生程度は平年並であった。

(2) 8月の降水量は、平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県下東部を除く地域で発生が見られたが、発生面積は全般的に平年以下であった。発生程度はいずれの地域も低かった。

(2) 8月の降水量は平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多(中央部)、少（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県中央部で発生が多かったが、他の地域では発生が見られなかった。
- (2) 8月の降水量は8月の降水量は平年より少ない確率が40%、平年並および多い確率がともに30%と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多(東部、中央部)、平年並(中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中央部でやや多、中西部で平年並、西部で少なかった。発生程度は県東部、中央部でやや高め、中西部で平年並、西部は低めであった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されており、高温期には増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.